まだ存在しないサービスを，つくる前に体験する
「Immersive Puppet Studio」

- ► **AR人形劇で，非専門家でもサービス体験のストーリーを「演じて作り」，**
  そのストーリーをVR空間で再現し，異なる立場から繰り返し「入り込んで確かめる」
- ► **新しいサービス価値への気づきと議論を促す**

こんな課題はありませんか？

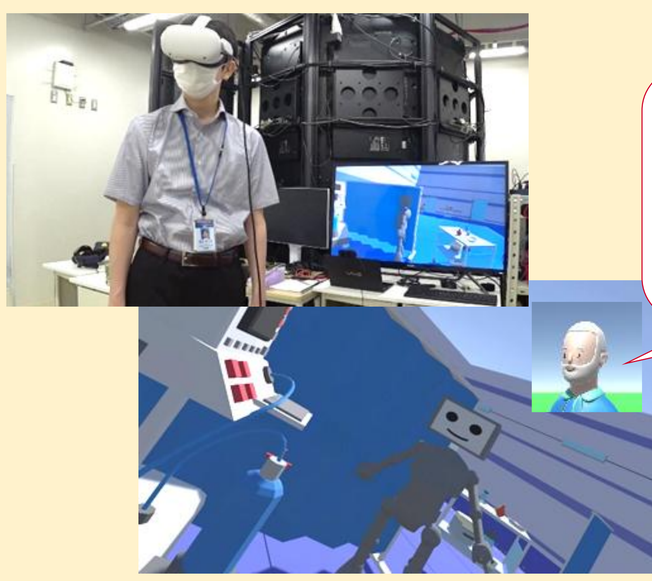
- ■ **動きのあるサービス体験を共有しにくい**：文章や一枚絵だけでは，サービスが使われる空間，時間の流れ，人と人工物の関係を共有しにくい
- ■ **立場ごとの体験が見えない**：利用者，家族，従業員，ロボットなど，立場によって同じ場面がどう見えるかを確認できない
- ■ **本格的に作り込む前に検討したい**：サービスの利用場面や立場ごとの体験を，早い段階で具体化したい

提案：サービス案を，AR人形劇でつくって，VRで体験

AR：マーカを動かしながらストーリーを記録



VR：作成したストーリーに没入して体験



各視点を切り替えながら
繰り返し体験

事例：ケアロボットのサービスを，複数の立場から検討

- ■ 大学生3名×3グループで，**「遠隔地の主人公に代わってケアロボットが患者の手を握る」**シナリオを題材とした3時間のワークショップを実施
- ■ 各段階で，主人公，父親，ロボットに対する印象を7段階で評価，全体終了後に自由記述アンケートと振り返り



アクティングアウト
（既存手法）



AR人形劇



VR体験

- ■ 視点を変えることで発見されたサービス案の課題

- ■ **父親**：「近い」「大きい」ことで，ロボットが想定以上に威圧的に見える
- ■ **ロボット**：家族が到着すると，ロボットの役割や居場所が曖昧になる

こんなテーマをお持ちの方，ぜひご相談ください

- ■ 構想中の新サービスがある
- ■ 人とロボット／AIが関わるサービスを開発している
- ■ 利用者以外の立場からもサービスを評価したい
- ■ 実証フィールドを持っている

例：　ロボットサービス｜モビリティ｜店舗・施設｜未来の働き方｜XR　… etc.

実証フィールド，
共同研究パートナー
募集中

RiHSA 人間社会拡張研究部門

大槻　麻衣
情報・人間工学領域 人間社会拡張研究部門
インターバース研究グループ
連絡先：M-rihsa-liaison-ml@aist.go.jp

25TH ANNIVERSARY
産総研
ともに挑む。つぎを創る。